

認知症と 共に生きる

■認知症とは

認知症とは、主に老いに伴う病気の一つで、さまざまな原因で脳の細胞が死ぬ、または働きが悪くなることによって記憶・判断の障害が起き、生活や対人関係に支障が出るのが主な特徴です。

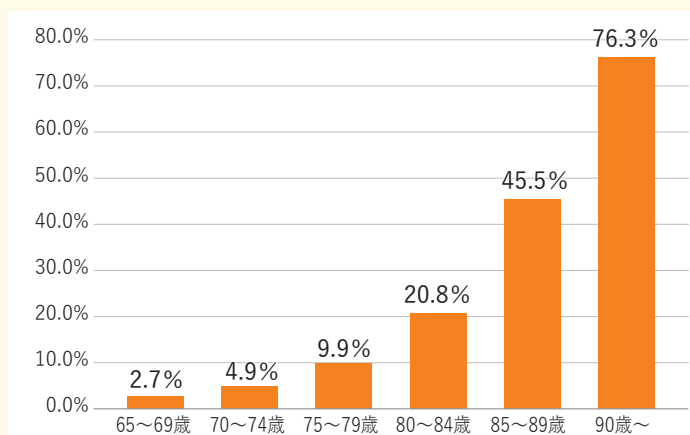
年齢を重ねれば、だれしも思い出したいことがすぐ思い出せなかったり、新しいことを覚えるのが困難になったりしますが、認知症はこのような加齢による物忘れと違い、「体験したこと自体を忘れてしまう」「物忘れの自覚がない」等の特徴があります。

■日本の状況

認知症施策推進関係閣僚会議が発表した「認知症施策推進大綱（令和元年6月発表）」によると、2018年に認知症の人の数は、500万人を超え、65歳以上の高齢者の7人に1人は認知症と見込まれるとされています。

■肝付町の状況

肝付町には、令和3年10月1日現在で、認知症状がある方は1,314名いるとされています。
つまり、人口の約10%の方が認知症と共に生きています。



▲認知症状のある方の割合（R3.10.1 現在）

■認知症に備えるために

町は認知症の早期発見対応をするために、認知症初期集中支援チームを結成したり、「介護や認知症の方の家族も支え愛の会」を発足したりしています。また、個別支援を行うなど、認知症当事者や家族への支援を実施しています。



また、ほかに、認知症予防出前講座や啓発イベント（きしらんと）、認知症サポーター養成講座を行う地域啓発事業なども実施しています。

認知症サポーターの数は、令和4年3月現在で小学生から高齢者まで延べ2,000人以上になりました。

今回の『第1回 語るカフェ「認知症の私から見える世界」を語る』も、教材としてYouTubeにアップロードされる予定です。

少子高齢化が進む中、認知症当事者だけでなく、家族や支援する方すべての人が自分らしく生きるためにできることを一緒に考え、認知症と共生する社会「安心して認知症になれる町肝付町」を創るために様々な取り組みを進めています。



お問い合わせ先

肝付町地域包括支援センター

☎0994(65)8419